



MBA 基準における判断と時代先端性への参加

黒田インターナショナルファンデーション

黒田 毅

企業は製品とサービス、価格と効率性、企業倫理性と正しい市場理解のデータ化と分析、IT システムを利用した流通環境、これらを時代先端性と MBA システムにおいて行い、高い利益性における企業運営を可能とする。

独自コンセプトにおける製品は市場プレゼンスを求める。インダストリー4.0における製品品質とコスト効率性の構築は、新しい企業環境の構築を可能とする。これら IT システムにおける企業構築は高い効率性における利益性の構築を可能とする、

価格と数量における販売は、流通システムの効率化とともに、製品プレゼンスの構築と価格プレゼンスの構築は世界市場における標準化を可能とし、大量販売とコストダウンとともに、企業の適正化を行い、企業の安定性と高い利益性を可能とする、

価格プレゼンスと製品プレゼンスは、基礎応用技術とデザインとともに、必ず需要を有するのである。この需要は数量販売の増加を有するため、利益性の確保を可能とするのである。これらは企業計画において企業構築を行い、市場の把握をデータ化し、自己流通環境を IT システムにおいて効率化し、世界市場における自己製品のコアコンピタンスを行う。私情におけるコアコンピタンスは、製品の独自性を求め、独自性は企業理念とコンセプトを要求する。

企業のシステム化は目標における効率性と品質基準を求め、これら新規企業基準は、基準の共有化における企業転換を可能とする。これらは新しい市場環境への参加の正しい企業判断である。

企業と製品におけるクリーンなイメージは市場参加における新しい環境を可能とする、